

ふるさと探訪

(17)

昭和32年開設、 21年間使われる

八津合町の上林中学校と
中上林小学校、睦寄町の奥
上林小学校の三校には、か
つて冬季に生徒や児童が共

同生活をした寄宿舎が残
る。十五年前に奥上林小の
寄宿舎が活用されたのを最
後に今はどの寄宿舎も使わ

上林中学校の寄宿舎

八津
合町

私たちの「第2の我が家」

かつての
寄宿生ら
思い出がいっぱいです

ひとときを過ごした人たちの
思いを探ってみた。

雪多く通学困難 な生徒らが活用

同校の寄宿舎は校舎棟が
並ぶ敷地の北端にある。上
林中の沿革誌によると、寄
宿舎は昭和三十一年に開設
され、二十一年間使われて
いた。冬場に雪が多く通学
が困難になる睦寄町古屋地
区と五泉町志地区、老富

町が生徒が活用した。
老朽化が激しい上林中の寄
宿舎は、今年度中に取り壊
しになる計画がある。

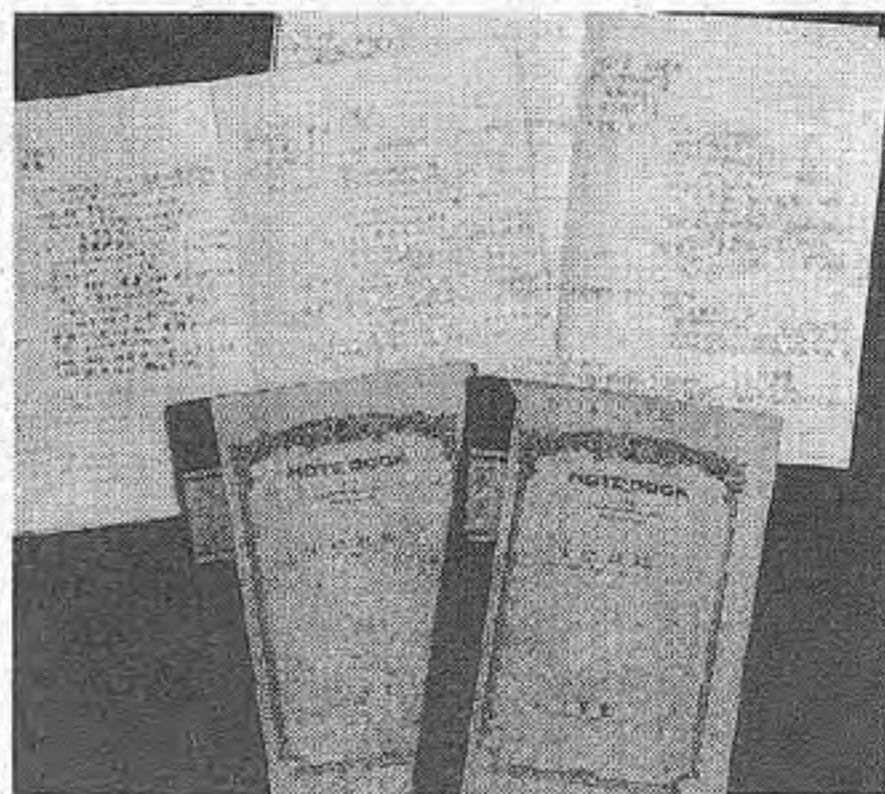
現在は廃屋化した建物だ
が、当時の子どもたちに
とっては、親元を離れて暮
らした「第二の我が家」。
そんな寄宿舎で少年時代の

大学のノートを用いた日誌は
五つの部屋ごとに一冊与え
られ、一冊一冊にその部屋
に割り当てられた生徒の名
前も書いてある。

寄宿舎生活は三学期の三
カ月間続き、実家に帰るの
は毎週土、日曜だけ。老富
町出身の田中さんは三年間
寄宿舎で冬を過ごした。寄
宿生らは兄弟のようだった
という。

開設当初は自炊
し風呂沸かしも
寄宿舎が開設された昭和
三十二年に上林中で教鞭
(べん)を執っていた福井

と内部に煙がこもり失敗
だったことが印象に残って
いるとか。
同じく同校でかつて教壇
に立った内藤昇さん(65)
「下八田町」と乾主計さん
(77)「鷹栖町」は「生徒
の保護者が作って下さった
大根の漬物の
味や豆炭のあ
んかを布団に
入れて寝たこ
とが懐かし
い」「生徒同
士や教師との
コミュニケーション
シヨンの場
だった」など
と、それぞれ
寄宿舎での思
い出を語る。



昭和38年ごろに寄宿生たちが書いた「生活記録」。助け合って共同生活をした様子が見られる

薪(まき)をたいて湯を沸かしていた。
生活記録に名前が記され
ていた当時の生徒の一人、
田中(旧姓渡辺)利恵子さ
ん(45)「福井県大飯町」
は「高校受験の前夜、教頭
先生がみんなの前でいろん
な話を下さり、安心し
たことを覚えてます」と当
時を懐かしむ。

かに階段をおりてほしい」
などといった、生徒たちの
共同生活の様子がつづられ
ている。
市志地区出
身の高橋さん
の中学時代は、寄宿生が五
人ほどだったが、「夕食後
に体育館でバスケットボー
ルをしたことが懐かしい」
と当時を振り返る。寄宿舎
が取り壊しになりそうなの
は、長男で上林中二年の孝

四郎さん(68)「睦合町」
によると開設当初は、食事
は生徒が自炊し、風呂も当
番を決めて沸かしていた。
福井さんは寄宿舎の建設
の際、炊事場の設計を担当
した。実際に使ってみる

きた寄宿舎。すっかり時代
の移り変わりに取り残され
た感じだが、そこには人肌
の温かみがしみてい
る。
昭和四十四
(高橋)

老朽化激しく取り壊しの計画が

(高橋)

昭和32年から21年間活用され、近く取り壊しの計画がある上林中の寄宿舎(八津合町で)

